

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 29 日作成)

委員会名	集合住宅管理小委員会	主 査 名：梶浦恒男
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築経済委員会	委員長名：嘉納成男
設 置 期 間	2001 年 4 月～2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>分譲マンションには居住者の合意形成など多くの問題があるが、マンションを主眼に置いた 21 世紀の都市居住をグローバルな視点から研究し、問題の解決に向けて貢献することを活動の目的とする。この 4 年間は建物の長寿化、マンションのサステナビリティを考え、集合住宅リノベーションの方法を研究していく。2001 年度マンションの居住実態の調査研究、2002 年度高経年マンションの居住実態の調査研究、2003 年度建物の老齡化への対応と再生手法の実態調査、リノベーションの実態調査、図書出版、講習会の開催、2004 年度長寿化社会に向けてのマンション居住の互助組織、コミュニティのあり方に関する研究、出版活動の総括と講習会の開催区</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>主査 梶浦 恒男 平安女学院大学 生活環境学部 幹事 阿部 一尋 (株)市浦都市開発建築コンサルタンツ東京事務所 幹事 田辺 邦男 関東学院大学 工学部建築設備工学科 幹事 米野 史健 国土交通省国 土技術政策総合研究所 住宅研究部 住宅計画研究室 今井 俊夫 今井環境建築事務所 奥澤 健一 (株)スペース・ユニオン 一級建築士事務所(第 13521 号) 笠原 秀樹 長谷エココミュニティ 川本 郷司 齊藤 広子 明治大学 不動産学部不動産学科 西戸 啓陽 明治大学 不動産学部不動産学科 長谷川 洋 国土交通省 国土技術政策総合研究所 住宅研究部 住宅計画研究室 藤本 佳子 金蘭短期大学 星川 晃二郎 (株)汎建築研究所 前田 昭彦 都留文科大学 村上 心 椋山女学園大 生活科学部生活環境学科</p>	
設置 WG (WG 名:目的)	なし	
2003 年度予算	70,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>2003年4月2日、7名参加、集合住宅リノベーション、コンバージョンについて、意見交換、出版について意見交換。</p> <p>2003年10月、3名、11月2名いずれも出版と講習会開催についての打ち合わせと内容についての意見交換</p> <p>2004年3月1日23名参加、講習会の開催とともに研究会、打ち上げ会開催</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>技報堂出版から『集合住宅のリノベーション』を出版した。</p> <p>3月1日、建築会館にて講習会開催、160名参加</p> <p>出版した『集合住宅のリノベーション』は、分譲マンションにおける大規模補修の経験やリノベーション工事の経験、そして公的賃貸集合住宅のリノベーションの全国的な事例を対象に、考察を深め、加えて欧米の事例の豊富な調査結果の考察をふまえて、今後の集合住宅の更新、再生による長寿化への対応を考察した。委員会委員及び委員会活動に参加頂いた研究者、実務家の協力で、これまでの研究成果を集約した成果物である。図表、写真などで事例紹介に力を入れることで、技術的、実践的価値を持たせるとともに、研究会での討論で得られた今後の方向の考察を含めて、学術的な価値を高めるように努めている。諸外国の事例は単に紹介するだけでなく、わが国への教訓を深めている。</p> <p>最近、少数例ではあるが、動き出したオフィスからマンションへのコンバージョンについても考察している。集合住宅のリノベーション研究は始まったばかりなので、集合住宅研究者、企画・設計に携わる技術者、行政マンをはじめ、マンション管理組合の理事、居住者など多くの方に読んでいただき、ご批判頂けると幸いです。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>短い期間で、出版と講習会の開催を成功させたのは、大変大きな成果である。目的の達成度はかなりの高率と言える。委員会幹事、委員諸氏、執筆頂いた方々のご努力の結果だと思う。</p>
その他評価すべき事項	特に無し